



第7回「アスナビ」意識調査〈企業編〉

『アスリート社員は社員の一体感醸成や企業イメージの向上に寄与』 選手を応援することが社員に力を与え、一体感が高まっている

JOCキャリアアカデミー事業では、2024年4月1日時点のアスナビ採用実績が227社394名となりました。前年度に引き続き、採用企業と選手のWin-Winの関係を更に構築していくことを目的とし、アスナビ就職選手・採用企業を対象に、第7回「アスナビ」意識調査2023を実施いたしました。今回、本アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告させていただきます。

■ 採用して良かったこと

アスリート社員は、社員の一体感醸成や企業イメージ向上に寄与していると実感

- ▶ 7割の企業が「社員の一体感醸成に寄与した」「企業イメージの向上に寄与した」と回答。
- ▶ 選手を応援することが社員に力を与え、一体感が高まっていると感じている。

■ 仕事に対するやりがい

「仕事のやりがい」を“とても”感じている割合は過去最高水準

- ▶ 現在の競技以外の仕事におけるやりがいについて、企業の64%が「とてもそう思う」と評価しており、高い水準にある。

■ アスナビの総合満足度

アスナビ総合満足度は過去最高に

- ▶ 「満足」と答えた企業は71%。「やや満足」と合わせると98%に達する。アスナビ総合満足度は過去最高であった。

■ 今後のアスリート社員の採用意向

今後のアスリート社員の採用検討意向は4割で安定している。

- ▶ 今後もアスリートの採用を検討する企業は4割で、ここ数年は安定した傾向をみせている。

【調査概要】

1. 調査目的 アスナビ就職選手と採用企業の実態を明らかにし、選手と企業間でコミュニケーションを図るよう支援をする。
2. 調査期間 2023年12月18日～2024年2月9日
3. 調査対象 これまでにアスナビを通じてアスリート社員の採用を行った企業169社
※但し2023年12月末日時点で所属アスナビ就職社員全員が退職している、または内定段階（入社前）にある企業は含まない。
4. 調査方法 【送付】アスナビを通じてアスリート社員の採用を行った企業担当者あてにメール送信
【回収】Webからの回答
5. 主な調査項目 ①アスナビ就職選手の入社前について
②アスナビ就職選手の入社後について
③アスナビ就職選手の引退後について
6. 集計社数 83社（回収率：49.1%）

【回答者プロフィール】

2023年1月から2023年12月末までのアスナビで初めて採用をした企業の回答は4社と少なかった。

▼対象期間内のアスナビ初採用企業

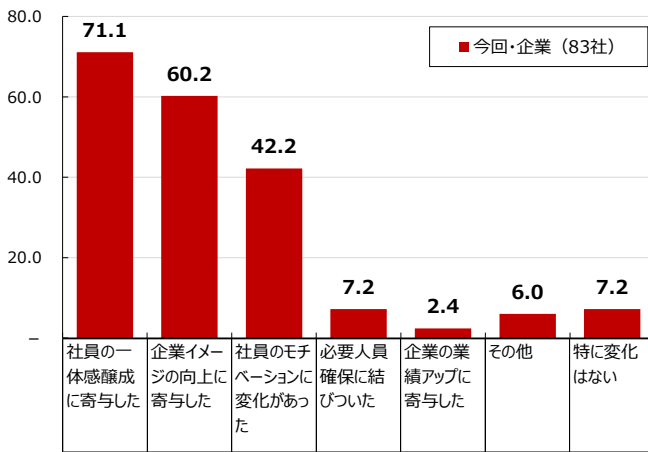
		この期間にアスナビで初めてアスナビ就職社員を採用した	対象期間以前からアスナビでアスナビ就職社員を採用している
回答数			
2020年	107	24.3	75.7
2021年	90	6.7	93.3
2022年	85	5.9	94.1
今回	83	4.8	95.2

単位：%

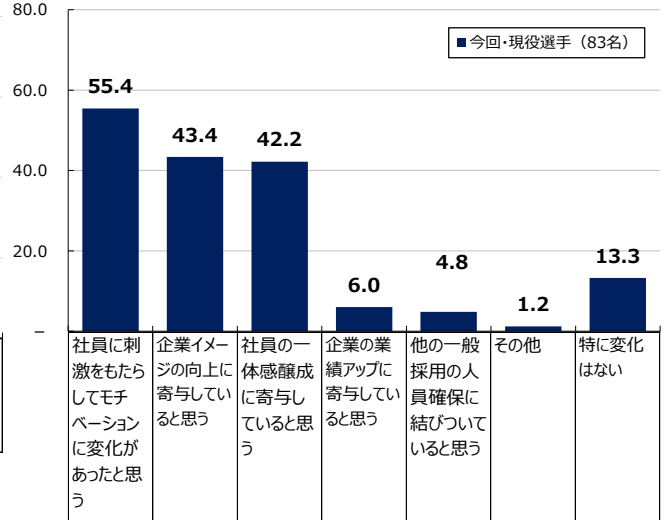
1. 採用して良かったこと

7割強の企業が「社員の一体感醸成に寄与した」と答えしており、また6割の企業が「企業イメージ向上に寄与した」と答えている。本項目に関し、選手への回答は4割程度にとどまっており、企業の評価の方が高くなっている。

■採用して良かったこと・企業



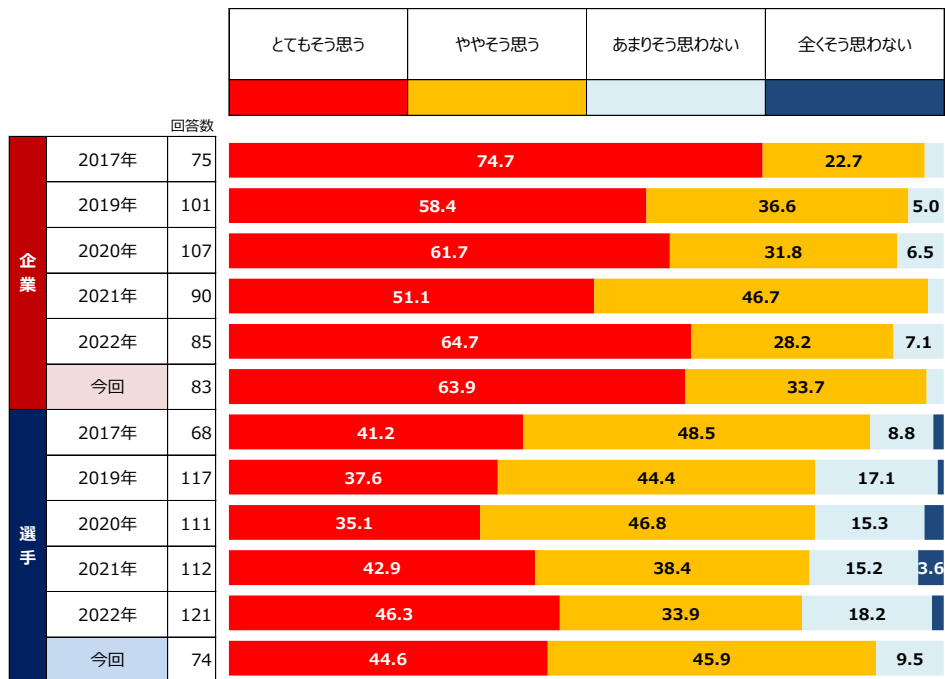
参考：入社して良かったこと・選手



2. 仕事に対するやりがい

アスナビ就職社員の仕事のやりがいの有無について、企業の64%が「とてもそう思う」と評価している。社員（現役選手）の自己評価より、企業側の評価の方が高い傾向が続いている。

■仕事に対するやりがいが感じられるか：時系列推移



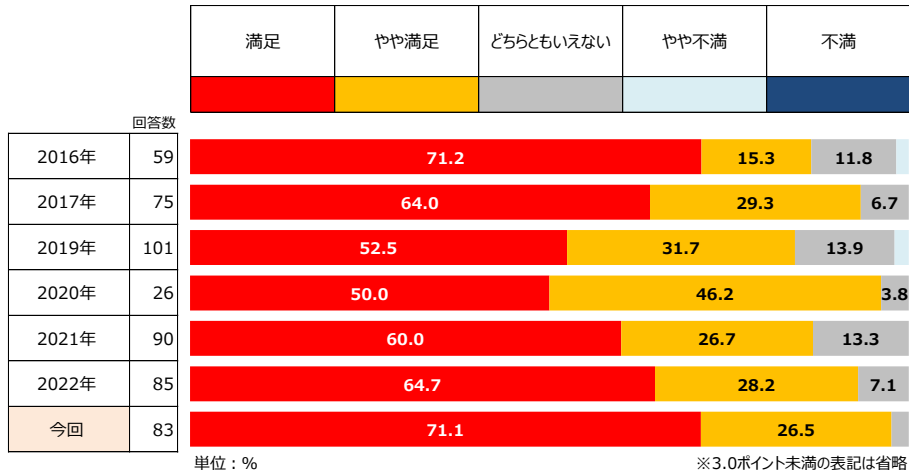
単位：%

※3.0ポイント未満の表記は省略

3. アスナビの総合満足度

「満足」と答えた企業は71%であり、「やや満足」と合わせると、98%に達する。時系列で見ると、2020年から増加に転じ、アスナビの総合満足度は過去最高の水準となった。

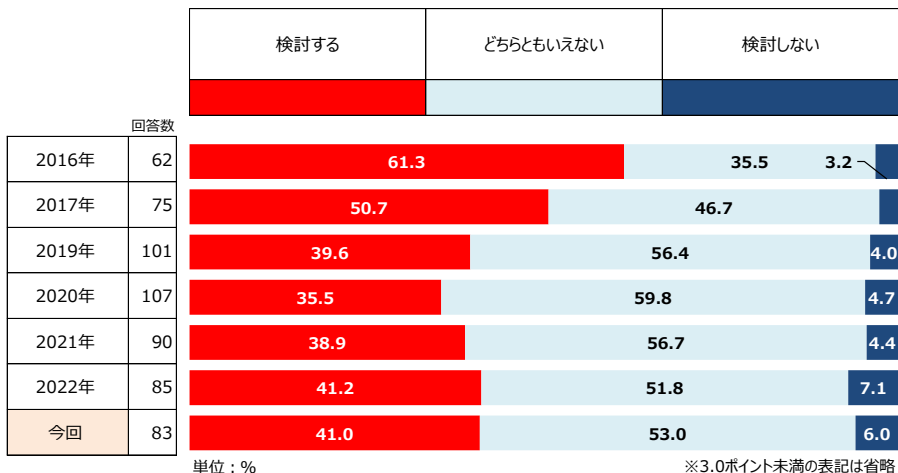
■アスナビの総合満足度：時系列推移 ※2020年のみ対象期間内にアスナビで初採用した企業のみを対象としている。



4. 今後のアスリート社員の採用意向

今後もアスリート社員の採用を検討する企業は41%であった。時系列で見ると、ご検討いただける企業の割合は安定している。

■今後のアスリート社員の採用の検討について：時系列推移



今後に向けて

1. 本調査を通じて、企業が課題と感ずることを共有化し更なるサービスの向上に努めます。
2. 具体的には、企業情報交換会や、選手向け研修会などの開催、アスナビニュースを通じた採用企業やアスリート社員の取り組みなどの情報発信等をこれまで以上に情報交換や交流の機会を作って参ります。